

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年6月4日放送分・東六番丁／花京院通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 「東番丁を行く！」シリーズは、今回で6回目です。建て替えが進む東六番丁小学校＝宮町商店街の入口にある「東六番丁／花京院通」の辻標から、街歩きスタートです。
- 花京院というお寺は、仙台開府より100年ほどさかのぼれる歴史の深いお寺だそうです。定禅寺や良覚院などと同じく檀家を持たない祈禱寺でした。そのため明治維新後、藩の経済的庇護を失い廃寺となりました。花京院スクエアの交差点をはさんで斜向かいにありましたが、コンセキは残っていないようです。



- 辻標のもう片面「東六番丁」は、奥州街道から数えて東に六番目の侍の街という意味です。初期の城下町は東五番丁まででしたが、伊達政宗が晩年、今の宮城刑務所がある古城に拠点を移した際にそこから東の街区が割り出されて行きました。東六番丁は後年、仙台東照宮の造営とともに形成された宮町に接続したと考えられています。



- 実は、東六番丁と宮町の町境は、東六番丁小学校のある角ではありません。現住所ではここから北が宮町1丁目ですが、かつてはもっと北に町境の木戸が設けられていました。その事を示す”辻標”が、宮町2丁目の「鈴憲」前にあります。つまり江戸時代、ここまでの範囲が東六番丁だったので、その事を示す建物が、”辻標”の南側にあります。仙台で唯一残る武家屋敷「安藤家住宅」です。幕末の安政期、仙台城下の人口は45,000人ほど、武家屋敷はおよそ2,500軒ありました。それが明治維新後、士族の没落や、太平洋戦争による焼失もあって、たった1軒が残るのみとなっています。

〈文・佐々木淳吾〉